３つの定例活動

みなさまの参加を
お待ちしております

小原本陣の森

第１日曜日

知足の森

第１日曜日

相模湖・嵐山の森

第３日曜日

News Letter

NPO法人緑のダム北相模
midorinodam.jp

No.460

清々しくも、厳かに新年の活動を開始

【定例活動報告】
相模湖・嵐山の森

新年で初めての活動日であり、午後3時から新年会が「青いリンゴ」で行われる。地球全体が異常気象に覆われており、日本海側に面した地域では、大雪が降り、積雪による被害がニュースで報じられている。
神奈川県は比較的雪も少なく、参加者の方は集まりやすい天候が続いている。只、大学生は期末テストの影響でフォレストノバの学生は皆さん欠席であった。朝の体操を、中学生の時、緑のダムで活動し高校に進学した学生3名が体操のお兄さんを買って出てくれた。順に役割が繋がるのを見ると何故か嬉しい。
森林整備班は、5台あるチェンソーの駆動状態をチェックしつつ鑢で刃を研い

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、 ボチボチと・・。

だ。チェンソー用の鑢が無くなっているので調査をすることとした。終了後、乾燥小屋の屋根下の破風（風の侵入を止める三角形の場所）に板で塞ぎ、きれいに破風を完成させてことができた。一応、乾燥小屋長年の夢が叶った貴重な場面であった。丸太材の皮むき、ホゾの切り出し、ノミによるホゾ作りにより手作りで初めて3年の月日が経過した。多くの方の手による傑作であることは言うまでもなく、人が変わったことは時代を感じさせるものである。

午後からは、花畑班の大量の太枝の処理にチェンソーで手伝い参加した。3時から新年会が「青いリンゴ」で行われた。川田代行の乾杯の音頭で始まり、岡田氏の総合司会は各自の自己紹介を行い交流を深めた。なかでも、朝「体操のお兄さん」を担当した現在高校生になって、自主的に参加されている3名の牧野君、吉澤君、亀谷君の話が印象的でありました。中学生時代は一緒に緑のダムで活動し、其々は高校に入学し自分の夢に向かっているが、こうして自主的に集まって森林整備や様々な作業を行うのは、学校の授業では学べない。大切な学びが沢山あることだ。高齢者の方の経験や知恵、他の学校に通う同期の方、自分たちと同じように中学の地球環境部で活動する後輩の人など、学校では経験できない貴重な体験ができていてありがたいことだと言う紹介があり、我々もやってて良かったと救われる場面では目頭を熱くした熟年は多かったのではなかったか。

今日はセブン・イレブン財団の責任者の方が活動を見に来られた。全国各地の団体を見ているが、緑のダム北相模の活動はトップクラスであるとの評価を頂いたことは参加者各自への強い自信につながったのではないかと思った。新年度を迎え、やることは沢山あるが自治体、森林組合、山主、地域の方々と溶けあう活動で消費者に森林の価値を伝える、繋げる、働かせることが役割だと感じた。（報告：小林　照夫）

新年最初の定例活動

新年会も含め、新しい活動への息吹を感じる活動日となりました

お花畑班の参加者は石原邦雄さん、岡田陽一さん、瀧澤道子さん、 丸茂。森林整備班から川田晃さん、小林照夫さん、石井明男さんも参加。作業内容：新年早々の活動は、毎年恒例の参加者全員で基地登り口にある小さなの山の神様 に今年の山仕事の安全祈願を行うところからスタート。お花畑班は前回同様に昨年暮れに基地内に持ち込んだ大量の伐採木の枝を薪用に束ねる仕事をした。川田さんにも手伝っていただき、太い枝は小 林さんと、石井さんがチェンソーで処理してくれた。太い枝の処理に石原さんが新兵器(太枝切り鋏)を持参。気持ちよい程切れ、鋸で腕を酷使せず助かった。やはり適材適所の道具選びは大切と思った。全部の雑木の処理はできたが、薪に束ねて小屋に運ぶ作業は次回継続となった。終礼の時に「セブン・イレブン財団」の視察団の方々が視察後に語った言葉が印象的だった。「世代を超えて一緒に森を守る活動をしている団体の中で緑のダムさんは数少ない例です。これからも頑張ってく ださい」セブンイレブン財団には20年間ずっと活動の助成をいただいている最もありがたいスポンサーである。新年早々とてもうれしい言葉と勇気をいただいた。

5時からは交流会館内の「青りんご」で新年会を開き、20名程が参加した。宮村連理さんが世話していた地球環境部 の学生さん(高校生3人)が「森の活動が楽しい。今後も続けます」と高揚した表情であいさつ。「若者の森づくり」に今後も期待できると思った。（報告：丸茂　喬）

新年最初の活動は枝打ちとした。セブンイレブンの方がいらっしゃるということで絵的に普段ないもの（間伐の映像は多々あったので）を実施。中学時代からの参加者は久しぶりの、中学生は初めての枝打ち。最初は高さにおののきながらも、慣れてくるとその楽しさ、充実度に興奮気味。慣れたメンバーはムカデ梯子の上に木登り器を２つ、３つとつけてさらに高い場所へ。そこはもう別世界。映画WOODJOBで監督が話していた林業の人しか知らない世界。嵐山には枝打ちが必要な木はあまりないが、知足の森にはまだまだ。今回もっとやりたい、というメンバーには２月の知足の森が本番だと気合を入れてこの日は解散。次回もよろしくお願いします。（報告：宮村　連理）

桜井尚武の森のコラム

「ミズキ(Cornus controversa)の樹形」

日本では冬に葉を落とすのが落葉樹、冬でも緑の葉を着けているのが常緑樹です。嵐山の基地である広場の山裾にミズキがあります。幹の模様や葉の葉脈などの目立つのがこの木の特徴です。

ミズキは落葉樹で冬は葉がないため、樹幹から展開する枝の構造がよく解ります。ミズキは春に主軸と同時に側枝も伸びます。伸び切るとその年はもう側枝を出さず、次に伸びるのは翌年の春なのでこのような形になり、階枝と名付けています（写真上）。頂芽から下方に向けて枝の出ている位置を数えると、そこまでの樹齢が解ります。階枝はマツ科の植物でもよく知られています。参考までにシラベ(Abies veitchii)の樹形を紹介します（写真中）。

ミズキは民俗学分野でも重要な木で、小正月（こしょうがつ）にミズキの枝に繭玉（餅ダンゴ）を刺して五穀豊穣を願うお供えにしたり、こけしや独楽などを作ったりします。宮城県の郷土玩具の鳴子こけしの材料に枝と枝の間が長いミズキ材が重用されるということです。ミズキの民俗を調べると色んな使い方をしてきたことが解って興味が沸くでしょう。

ミズキは好陽性の先駆種です。いち早く水平に広く枝を伸ばせるように、横に伸びた枝のすぐ次の下方の芽が前の枝に継ぎ足すように伸びる、側芽優勢の性質があります（写真下）。5月末には平たく伸ばした枝の上に白い花を階段状に展開させるので遠目にもよく解ります。

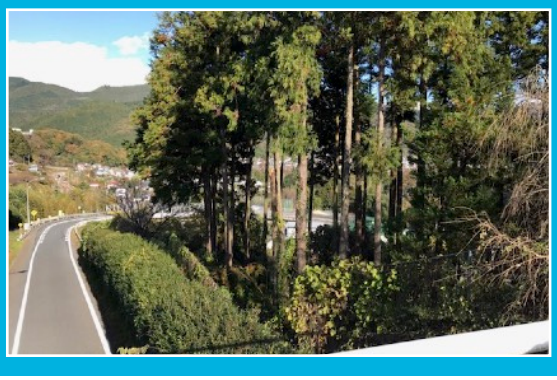
桜井　尚武（本会、会員）

【若者の森づくり】ForesTo Class

私たちフォレストクラスは1月7日(日)に今年1回目となる活動を行いました。内容は前回の活動の続きで、中央道の相模湖西インター沿いにある永井広紀さんの山の木の伐採を行いました。風や雪で枝や場合によっては幹が折れて道路に入ってしまう恐れのある木を伐採するといったものです。

失敗が許されない中、倒せる範囲も限られており、木の重心も道路に傾いていたりと難しい条件での作業となりました。一本一本、木の状態を確認し安全に確実に倒せる様に牽引器具を設置して意見を交わしながら慎重に作業を進めました。

無事、計画通り作業を完了する事が出来ました。



今年も1年間、安全第一に活動を継続していきたいと思います。今年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

齊藤　駿一（Forest Class）

【若者の森づくり】Forest Nova

Forest Nova☆は一月は試験のため活動できませんでした。まずはForest Nova☆の近況から書きたいと思います。以前からメンバーのやりたいことを教えてくれないことが疑問だったため、メンバーにやりたいことを書いてくるようにお願いしました。するとメンバーの多くは間伐よりも森の生物に興味があることが分かりました。過去に動物の観察をしていた人や、虫や植物に興味があって自然の中で活動したいと考えている人がいました。現在Forest Nova☆メンバーは森林整備などの活動を続けていくことに力を尽くしています。みんな何とか活動が途切れないように頑張っているのが分かります。しかし現在メンバーが活動から感じているのは自分のやりたいことをやっているという喜びではないのかもしれません。活動内容を変えなくてはならないのではと考えています。森林整備と森の生物を関連づけて考えられないか検討したいと思っています。例えば虫や動物にとって住みよい環境を整えることを目指すことです。生物の多様性を保ちつつ、活動地の周辺に住む人たちに動物の被害が出ないような環境を作れたらいいと自分は考えています。

現在Forest Nova☆には新入生がいません。Forest Nova☆メンバーが満足できるような活動内容を提案していかなければ新入生の定着は難しいと思います。今年の新年の抱負は、現在の活動をみんながやりたいと思える活動にすることです。

五味　輝史（Forest Nova）

【若者の森づくり】地球環境部

今回は嵐山の森で枝打ちに参加した中学生の感想を紹介します。

私は今まで森に４回行ったが、今日は1番印象的で面白い1日だった。

初めは、今日もいつものように木を切るものだと思っていたが実際に行ってみると、木を切るのではなく枝打ちをした。枝打ちをするということを聞いた時は、以前見た映像で、木に立てかけたはしごでとても高いところまで登っていたのを思い出し、高いところに登る恐怖と落ちるのではないかという不安でいっぱいだった。

そんな気持ちの中、細く小さい木で初めに練習をやった。すると、はしごの段を一段また一段と上に上がって行くうちに、恐怖や不安という気持ちはどんどん無くなっていった。そんな気持ちよりも、枝がおもしろいように切れていく気持ち良さと、今まで行ったことの無い高い世界に行くような興奮の方が大きくなっていった。1本終わる頃には恐怖や不安は全く無くなり、気持ちの良さと興奮しか無かった。

そして何本か細い木で練習をしたのち、太く高い木に登ることになった。初めは少し怖さがあったものの、頑張ってはしごの頂上近くまで登れた。そこで下を見ると見たことのない景色が広がっていた。地上にいる友達は数cmに見え、他の木がすぐ近くに見えた。まるで木と同じような目線になっているようにも思えた。初めて見る景色に興奮が止まらなかった。それと同時に、高い場所から見下ろしている木に比べて、自分がとてもちっぽけな存在のようにも思えた。また高いところに行けば行くほど、違う景色が見られるのでもっと上に行きたくなっていった。

今日枝打ちを初めてやってみて、はしごの上には1人しかいないのに関わらず、上手く枝を切れなかったことがあり、悔しいこともあった。しかし次回やる時までには、地上で木を切る技術をもっと習得してから木の上に登りたいと思った。また枝打ちを出来るなら、もっと高くて大きい木でやってみたいと思った。そしてもっと新しい景色を見たい。

仲田　未希
（東京学芸大学附属小金井中学校２年）

【イベント報告】

本会の積み木を使っての模擬授業を東京学芸大学の学生が行いました。その様子と報告をもらいましたので、ご紹介します。

１月９日に、模擬授業を行った。4人グループで、20人ほどに対して授業を実施した。プログラムの流れは、導入・展開1・展開2・まとめという形をとった。流れに沿って、以下に授業の様子を述べる。

まず、導入を行った。「身の回りにある、木でできているもの」を生徒たちに挙げさせ、自分たちの身の回りには木でできているものがあふれかえっていることを実感させた。日本の国土は森林が多く、木は生徒たちにとって身近だとおいことを印象づけることができたのではないかと思う。

次に、お借りした積み木を提示した。提示した積み木が、ある特別な木を使っているのだということを伝えてから積み木を配り、好きなものをつくってもらった。今回は大学生に対して積み木を配ったが、かなり盛り上がり、様々なものをつくっていた。例えば、ショー

トケーキ・ロケット・家・人生などをつくっていた。木のぬくもりを感じるという目的を達成できたのではないかと思う。匂いを嗅いで、木の良いにおいがするなどといった声もきかれた。

そして、実はお借りした積み木が間伐材からできているということを生徒に提示した。そもそも間伐材とは何なのか、間伐をすることの意味などを紙芝居形式で、提示した。他に、間伐材からできているものとして、割りばしなども紹介した。この体験型プログラムを通して、生徒たちが今後割りばしなどを見た際、間伐材のことを思い出し、自然との関わり方について考える機会を作れたのではないか。模擬授業を受けた人の感想なども聞くことができればよかった。

小岩井　爽（東京学芸大学教育学部３年）

【初参加者の感想から】

今回初めて参加させて頂き、学生からシニア世代が一緒に活動している姿を見て、人の結びつきが強い活動だと感じました。その結果、目に見える形として、豊かな相模の森の自然環境に姿を変えていると思います。また、その人の繋がりの動機の要因の一つとして、この活動が楽しいことにあると思います。実際に参加して、森と触れ合うことが出来、とても新鮮で、夢中になっていました。

私自身も行政職員として市民協働に携わっていますが、中々後継者が見つからず、団体の持つ力が徐々に縮小しているのを目の当たりにしています。緑のダム北相模さんは違い、どんどん活力が大きくなっていると感じます。新しい人を受け入れることに寛容だと思いました。初めて参加するのにあたって、溶け込めるか不安はありましたが、皆さんに気さくに話しかけて頂いて、とても居心地が良かったです。

今後、居心地が良い、また参加したくなるような活動や団体を作れるよう、仕事に活かしていきたいと感じました。

藤原　良市（小金井市環境政策課）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は汁物が提供されますので自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
現地事務局：〒252-0172　相模原市緑区与瀬本町12　かどや食堂内
発行人：NPO緑のダム北相模
支援団体：セブン-イレブン記念財団、２２世紀やま・もり再生ネット
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構
パタゴニア環境助成
賛助団体：北都留森林組合、（株）トレカーサ工事
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、
東京学芸大学環境教育研究センター、
（社）さがみ湖 森・モノづくり研究所